【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成25年6月20日(2013.6.20)

【公表番号】特表2007-505183(P2007-505183A)
【公表日】平成19年3月8日(2007.3.8)
【年通号数】公開・登録公報2007-009
【出願番号】特願2006-525919(P2006-525919)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｊ　9/26　(2006.01)
Ｃ１２Ｎ　5/07　(2010.01)
Ａ６１Ｌ　15/16　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　8/73　(2006.01)
Ａ６１Ｑ　19/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　9/14　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/36　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/10　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/04　(2006.01)
Ａ６１Ｑ　11/00　(2006.01)
Ａ２３Ｌ　1/05　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｊ　9/26　１０２
Ｃ０８Ｊ　9/26　ＣＥＰ
Ｃ１２Ｎ　5/00　Ｅ
Ａ６１Ｌ　15/01
Ａ６１Ｋ　8/73
Ａ６１Ｑ　19/00
Ａ６１Ｋ　9/14
Ａ６１Ｋ　47/36
Ａ６１Ｋ　47/10
Ａ６１Ｋ　47/04
Ａ６１Ｑ　11/00
Ａ２３Ｌ　1/04

【誤訳訂正書】
【提出日】平成25年4月30日(2013.4.30)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３７
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３７】
可塑剤対ゲル形成重合体の比は、水及び添加剤を除いて、生じたゲル化発泡体が、優勢に可塑剤であるようなものである。水性分散液中の可塑剤対アルギネートの比は、適切には、約１０：１から約２：１まで、一般的には約９：１から約２．５：１まで、さらに一般的には約８：１から約３：１まで、そしてさらに一般的には、約６：１から約４：１までである。高濃度の可塑剤を有する乾燥ゲル化発泡体は、例えば、外傷包帯用途について要求される通り、軟らかく、そしてしなやかである。高濃度の可塑剤は、乾燥ゲル化発泡体に、粘着性表面を与え得るが、しかし可塑剤濃度を減少させることは、乾燥ゲル化発泡体を硬化させる。好ましくは、水及び添加剤を除いて、乾燥ゲル化発泡体は、優勢に、可

塑剤により構成される。一般的に、可塑剤は、水、及びシリカのような添加剤を除いて、５０重量％より多く、さらに一般的に５５重量％より多くを乾燥ゲル化発泡体において占める。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ａ）以下の成分：
アルギネート、ペクチン性物質、カラギーナン、グリコールアルギネート、及びその混合物より構成される群から選択されるゲル形成重合体、
ゲル化剤；
水溶性可塑剤；
ｐＨ調節剤；及び
水；
を含む水性分散液を形成し、
ここで水性分散液の形成にあたっては、ゲル形成重合体を水に溶解させた後にゲル化剤を水に分散させ；
ｂ）その分散物から発泡体を形成し、そしてゲル化発泡体を形成し；そして
ｃ）ゲル化発泡体を乾燥させて、乾燥ゲル化発泡体を形成する；
工程を含み、
水を除外した乾燥ゲル化発泡体の５０重量％より多くが可塑剤からなり、機械的に均質である乾燥ゲル化発泡体を形成する方法。
【請求項２】
水性分散液が発泡剤を含む請求項１記載の方法。
【請求項３】
水性分散液中の可塑剤対ゲル形成重合体の比が、１０：１から２：１までである請求項１または２記載の方法。
【請求項４】
水性分散液中の可塑剤対ゲル形成重合体の比が、８：１から３：１までである請求項１または２記載の方法。
【請求項５】
水性分散液中の可塑剤対ゲル形成重合体の比が、６：１から４：１までである請求項１または２記載の方法。
【請求項６】
水性分散液が、０．５重量％から１０重量％までのゲル化形成重合体を含む請求項１から５までのいずれか１項記載の方法。
【請求項７】
水性分散液が、１重量％から６重量％までのゲル化形成重合体を含む請求項１から５までのいずれか１項記載の方法。
【請求項８】
水性分散液が、２重量％から４重量％までのゲル化形成重合体を含む請求項１から５までのいずれか１項記載の方法。
【請求項９】
ゲル化形成重合体が、少なくとも３０％のＧ含有率を示すアルギネートである請求項１から８までのいずれか１項記載の方法。
【請求項１０】
アルギネートのＧ含有率が、４０％から９０％までである請求項９記載の方法。

【請求項１１】
アルギネートのＧ含有率が、５０％から８０％までである請求項１０記載の方法。
【請求項１２】
アルギネートが、少なくとも１５０，０００ダルトンの分子量を示す請求項９から１１までのいずれか１項記載の方法。
【請求項１３】
添加されるゲル化剤の量が、アルギネートのゲル化部位の２５％から２００％までを飽和するのに十分である請求項９から１２までのいずれか１項記載の方法。
【請求項１４】
添加されるゲル化剤の量が、アルギネートのゲル化部位の５０％から１００％までを飽和するのに十分である請求項９から１２までのいずれか１項記載の方法。
【請求項１５】
ゲル化剤が、炭酸カルシウムである請求項９から１４までのいずれか１項記載の方法。
【請求項１６】
水溶性可塑剤が、グリセリン、ソルビトールまたはそれらの混合物である請求項９から１５までのいずれか１項記載の方法。
【請求項１７】
水性分散液が、発泡剤を含み、そして発泡剤が、ヒドロキシプロピルメチルセルロースを含む請求項９から１６までのいずれか１項記載の方法。
【請求項１８】
水性分散液が、発泡剤を含み、そして発泡剤が、メチルセルロースを含む請求項９から１７までのいずれか１項記載の方法。
【請求項１９】
発泡剤が、さらに、非イオン性界面活性剤を含む請求項１７または請求項１８記載の方法。
【請求項２０】
ｐＨ調節剤が、グルコノ・デルタ・ラクトンである請求項１から１９までのいずれか１項記載の方法。
【請求項２１】
さらに、段階ｂ）の後で、そして段階ｃ）の前に、水と混和性であるか、または水溶性可塑剤を含む水が部分的に可溶性である有機液体の浴に、発泡体を添加し、そして発泡体ビーズを形成する段階を含む請求項１から２０までのいずれか１項記載の方法。
【請求項２２】
水性分散液が、順に、
ｉ）いずれかの順で、ゲル形成重合体、可塑剤、及び任意で発泡剤を水中に溶解させ、そして水中にゲル化剤を分散させ、
ｉｉ）水にｐＨ調節剤を添加する段階によって形成され、
発泡体が、工程ｉ）の直後に、または工程ｉｉ）の直後に形成されるものである請求項１から２１までのいずれか１項記載の方法。
【請求項２３】
乾燥ゲル化発泡体が、添加剤を含まない場合は水を除いて、添加剤を含む場合は水及び添加剤を除いて、０．０５重量％から５．０重量％までの界面活性剤を含む請求項１から２２までのいずれか１項記載の方法。
【請求項２４】
水性分散液が、さらに、水溶性銀塩を含む請求項１から２３までのいずれか１項記載の方法。
【請求項２５】
さらに、乾燥ゲル化発泡体に、添加剤を添加する工程を含み、該添加剤が着色剤、風味剤、食品、医薬上活性な成分、化粧用剤、または研磨剤である請求項１から２３までのいずれか１項記載の方法。

【請求項２６】
添加剤が、着色剤または風味剤である請求項２５記載の方法。
【請求項２７】
添加剤が、キトサンである請求項２５記載の方法。
【請求項２８】
水性分散液が添加剤を含み、該添加剤が着色剤、風味剤、食品、医薬上活性な成分、化粧用剤、または研磨剤である請求項１から２３までのいずれか１項記載の方法。
【請求項２９】
添加剤が、食品である請求項２８記載の方法。
【請求項３０】
添加剤が、医薬上活性な成分または化粧用剤である請求項２８記載の方法。
【請求項３１】
添加剤が、研磨剤である請求項２８記載の方法。
【請求項３２】
処理が、連続処理である請求項１から３０までのいずれか１項記載の方法。
【請求項３３】
処理が、バッチ処理である請求項１から３０までのいずれか１項記載の方法。
【請求項３４】
請求項１から３３までのいずれかの方法によって生成される乾燥ゲル化発泡体。
【請求項３５】
アルギネートであるゲル形成重合体、及び水溶性可塑剤を含み、そして可塑剤対アルギネートの比が、１０：１から２．５：１までである機械的に均質な乾燥ゲル化発泡体。
【請求項３６】
乾燥ゲル化重合体が、さらに、ヒドロキシプロピルメチルセルロースを含む請求項３５記載の乾燥ゲル化発泡体。
【請求項３７】
可塑剤対アルギネートの比が、８：１から３：１までである請求項３５または３６記載の乾燥ゲル化発泡体。
【請求項３８】
可塑剤対アルギネートの比が、６：１から４：１までである請求項３５または３６記載の乾燥ゲル化発泡体。
【請求項３９】
水溶性可塑剤が、グリセリン、ソルビトール、またはそれらの混合物である請求項３５から３８までのいずれか１項記載の乾燥ゲル化発泡体。
【請求項４０】
乾燥ゲル化発泡体が、添加剤を含まない場合は水を除いて、添加剤を含む場合は水及び添加剤を除いて、０．０５重量％から５．０重量％までの界面活性剤を含む請求項３５から３９までのいずれか１項記載の乾燥ゲル化発泡体。
【請求項４１】
乾燥ゲル化発泡体が、添加剤を含まない場合は水を除いて、添加剤を含む場合は水及び添加剤を除いて、５５重量％を超える可塑剤を含む請求項３５から４０までのいずれか１項記載の乾燥ゲル化発泡体。
【請求項４２】
さらに、添加剤を含み、該添加剤が着色剤、風味剤、食品、医薬上活性な成分、化粧用剤、または研磨剤である請求項３５から４１までのいずれか１項記載の乾燥ゲル化発泡体。
【請求項４３】
添加剤が、医薬上活性な成分または化粧用剤である請求項４２記載の乾燥ゲル化発泡体。
【請求項４４】

添加剤が、食品である請求項４２記載の乾燥ゲル化発泡体。
【請求項４５】
添加剤が、研磨剤である請求項４２記載の乾燥ゲル化発泡体。
【請求項４６】
基板が、織または不織物品、フィルム、または別の乾燥ゲル化発泡体である、基板上に請求項３４から４３までのいずれか１項記載の乾燥ゲル化発泡体を含む外傷包帯。
【請求項４７】
請求項４２の乾燥ゲル化発泡体を含む送出系。
【請求項４８】
添加剤が、化粧用剤である請求項４７記載の送出系。
【請求項４９】
乾燥ゲル化発泡体が、フェイスマスクである請求項４７記載の送出系。
【請求項５０】
請求項３４から４１までのいずれかの乾燥ゲル化発泡体を含み、そして発泡体中に付着した細胞を複製する細胞培養複製系。
【請求項５１】
請求項３４から４１までのいずれかの乾燥ゲル化発泡体、及び医薬上活性な成分または化粧用剤、複製細胞、あるいはそれらの混合物を前記発泡体中に含む生物吸収性移植片。
【請求項５２】
ヒト体内に移植された請求項３４から４１までのいずれか１項記載の乾燥ゲル化発泡体を含む生物吸収性防御媒体。
【請求項５３】
化粧用剤が、湿潤剤または緩和剤である請求項４８記載の送出系。
【請求項５４】
湿潤剤または緩和剤が、グリセリン及びヒアルロネートより構成される群から選択される請求項５３に記載の送出系。